アッケシソウ通信

第16号
令和８年10月




アッケシソウに携わっている皆さんによる刈草回収作業




浅口清掃センター・おかやま山陽高校・守る会による刈草回収作業




緑のアッケシソウを楽しむ皆さん




寄島学園五年生児童によるアッケシソウの説明

「アッケシソウ通信」第十六号によせて

浅口市長　栗山康彦

アッケシソウ通信第十六号のご発刊、誠におめでとうございます。日頃より本市が誇る貴重な自然財産であるアッケシソウの保護・育成に、並々ならぬ情熱とご尽力を注がれる「浅口市寄島町アッケシソウを守る会」をはじめ、関係者の皆さまに心から敬意と感謝を申し上げます。

本年は、長年の保全活動が結実し「二〇二五年度水環境文化賞」を受賞するという素晴らしい年になりました。地域の皆さまが守り抜いてきた環境が全国的に評価されたことは、私たちの大きな誇りです。さらに、新たな自生地が発見されるという嬉しいニュースもあり、アッケシソウが息づく環境の広がりを実感しています。そして何より心強いのは、この活動が子どもたちへと受け継がれていることです。自生地を訪れた小学生たちが、目を輝かせ、体験を通じて自然の大切さを学ぶ姿は、未来への確かな希望です。大人が守り続けてきた自然と地域への誇りが、子ども達の笑顔を通じて次の世代へしっかりとバトンタッチされています。

本市も、皆さまと力を合わせて環境を守る取り組みを温かく支えながら、本州唯一の自生地を次世代へ引き継いでまいります。これからも、アッケシソウを愛する輪がさらに広がることを願いまして、ご挨拶といたします。

アッケシソウ自生地 F・G地区の新発見

岡山理科大学名誉教授　星野卓二

浅口市寄島町の干拓地で、新たなアッケシソウの自生地が令和七年十一月にF地区、令和八年五月にG地区が相次いで発見された。F地区は、C地区とD地区の中間に位置していて、中央に流れる海水の流路に沿ってアッケシソウが生育していた。周辺には、塩湿地を特徴づける、ウラギク、ハママツナ、ホソバハマアカザ、ホコガタアカザおよびヨシなどが生育していた。G地区には、A地区の東側で遊水池に近い場所で、遊水池に沿うように分布していた。ここには、アッケシソウの純群落が約十五平方メートルに広がっていて、周辺には、塩湿地に出現するウラギク、ホソバハマアカザ、ウシオハナツメクサ、シオクグ、ハマヒエガエリ、イソヤマテンツキが見られた。また、イノシシが侵入し荒らされた場所が見られ、害獣対策も必要になると推定される。







アッケシソウは、一九一三年に愛媛県新居浜市多喜浜（新居浜塩田）で、牧野富太郎により本種が発見され、瀬戸内海沿岸地域にも広く分布することが明らかになった。しかし、護岸工事や埋め立てにより塩田が消滅してしまい、アッケシソウの自生地は浅口市寄島干拓地のみとなった。本種は、岡山県のレッドデータブックでは絶滅危惧一類とされていて、絶滅が危惧される種である。浅口市寄島干拓地の生育地は「アッケシソウを守る会」の長年にわたる保護活動が実って、分布域も拡大している。今後も貴重なアッケシソウの自生地が守られて、次の世代の活動に受け継がれることを祈っている。

厚岸町のアッケシソウ令和七年度の取組みについて

厚岸町海事記念館　学芸員　小田島賢

前号に引き続き、当通信での執筆の機会をいただきありがとうございます。さて、前号ではチカラコタン地区での人工栽培の内容についてでしたが、今回は令和七年度の取組みについていくつか紹介します。

一つ目の活動は、令和七年六月十四日から七月十三日の期間で「企画展『アッケシソウ』」を開催しました。企画展では、厚岸町内、北海道内の自生地や浅口市での取組みをパネルや写真で紹介しました。当館でのアッケシソウに関する展示は初めてだったため、町民をはじめとする多くの方々にご来館いただき、延べ四八四名を数えました。展示の内容をまとめた冊子は、全国文化財総覧のHPにて公開しておりますので、ぜひご覧ください（紙面のQRコードからもダウンロードできます）。

二つ目は、「アッケシソウ学習会」を昨年度から継続して実施しました。学習会は芽が伸び始める初夏と、赤く色づき始める秋口に二回行なっています。今年度の一回目の学習会は六月二十一日に開催し、先ほどの企画展の開催時期に合わせて、アッケシソウの概要やこれ

までの取組みを館内で説明したあと、チカラコタン地区と郷土館前庭の栽培地に移動し、実際にアッケシソウの生育状況を観察しました。二回目は九月十三日に開催し、一回目と同様に観察し、栽培地一・二面の嵩上げ工事（後述）について説明しました。チカラコタン地区栽培地はタイミングが良く、ちょうど赤いアッケシソウを観察することができました。一方で郷土館前庭の栽培地では、約半数の個体がまだ緑色であり、栽培地ごとで異なる生長度合いを観察することができました。参加者数は、一回目が十一名、二回目が七名となっています。



三つ目は、チカラコタン地区一・二面の嵩上げ工事についてです。この二つの面は、三・四面に比べて十五㎝低く設計されており、令和四年度の栽培開始当初から海水に浸かる時間が長いことから、あまり生長しませんでした。特に一面の南側は海水が引かず、常に水浸しの状況であったため、発芽しない、または発芽後に死滅しました。二面も六～七月頃までは順調に生長しますが、紅葉せずに白く変色してしまう状況が続いていました。そこで両面とも五㎝嵩上げし、三・四面の環境に近づけるため工事を実施しました。そのほか、海面流入の際、藻類が入り込み詰まるため、取水口の外側に蛇籠を設置しました。これらの工事によって令和八年度以降、どのような生育をみせるのか、職員一同楽しみにしています。

四つ目は、北海道厚岸翔洋高等学校（以下、「翔洋高」と呼ぶ）三年生二名及び先生による「アッケシソウ発表会」を令和八年二月十七日に行ないました。翔洋高では、令和五年度から授業内でアッケシソウに関する取組みを行なっており、その成果を発表していただきました。生徒二名は、厚岸町の新たな観光資源としてアッケシソウに注目し、室内でそれぞれ環境を変えて栽培を行ない、その結果から栽培方法について考察されました。こちらも初めての事業で、三十三名に参加いただきました。

このように令和七年度は初めての事業が複数あり、個人的にもアッケシソウを通じて多くのことを学ばせていただく印象深い年となりました。今後とも厚岸町の貴重な財産であるアッケシソウを守り育て、そして多くの方々に知っていただくため、尽力していきます。

令和七年度の活動報告

会長　藤沢　福夫

最近の夏は、酷暑日に迫る日が続き、アッケシソウの生長が気になります。

草刈りには会員を始め、浅口清掃センターの皆様、浅口市スポーツ少年団の皆様、おかやま山陽高校サッカー部・空手道部・ユネスコ部の皆様には、暑い中頑張っていただいて、本当に感謝いたします。おかげ様で、九月中旬の緑のアッケシソウを楽しむ会及び十月下旬のアッケシソウ祭りを無事に迎えることができ、昨年度も十日間で約四千五百名の見学者が来られ、守る会一同、大変嬉しく思いました。マスコミにも取上げられて、市外からも新聞やＴＶを見て来ましたと言われ喜んでいます。

令和八年になり、日本水環境学会から水環境文化賞という素晴らしい知らせが届きました。最近は、毎年の様に各種団体からの表彰の知らせがあり、私たちの活動が注目されていることを感じています。今後とも受賞に恥じない様に頑張って行きたいと思います。今回受賞した水環境文化賞は、水環境の保全を創造に関する活動を行なった個人・団体に大学等の教育機関を中心に構成される公社団法人日本水環境学会から贈られたものです。今年度はアッケシソウを守る会を含め、全国で三団体が受賞しました。岡山県内では今回で二団体目です。



本会の活動につきまして、引き続きご協力いただきますよう宜しくお願いします。

「企業等賛助会員」

アッケシソウを守る会の活動資金充足のため、八年度も企業賛助会員をお願い致しましたところ、三十二の企業・病院・金融関係・商店等からのご協力、ご支援をいただきました。心から御礼申し上げます。

（アイウエオ順列記）

アキタ帽子㈱
㈲荒川電気工業所
医療法人あかり歯科クリニック 池田歯科医院
㈱一力興業
印刷のよこやま
垣内フォトスタジオ
笠岡信用組合寄島支店
㈱カネシン
㈱川崎商会
㈱吉川隆泉堂
医療法人社団同仁会 金光病院
斎藤教材㈱
しろやま歯科クリニック
㈲菅呉服店
すくすくこどもクリニック
㈲妹尾溶接
高山医院
中央ガス㈱
中備化工㈲
ドレンシー㈱
㈱ニッペコ
晴れの国岡山農業協同組合 寄島支店
㈱美星ミート
医療法人福嶋医院
Honda Cars笠岡
㈱ミヤケ建設
医療法人みわ記念病院
㈱めぐみ
山下農機商会
医療法人社団 よりしま中西医院
㈱渡辺吉備園

活動支援金の紹介
笠岡東ロータリークラブ



笠岡東ロータリークラブを代表して会員の福嶋氏より、寄付金を賜わりました。今日までのご支援とご厚志に守る会一同、心から感謝と共に御礼を申し上げます。

「視察研修」に参加して

作業会員　泉谷令子

入梅して三日目の六月六日(土)、天候に恵まれ十九名の乗ったバスは、緑の美しい景色を眺めながら国営備北丘陵公園(広島県庄原市)へと向かいました。

公園に着いて、先ず国兼池（広島県内最大のため池）の大きさと公園の広さにびっくり！ため池は、大芝生広場や花の広場、つどいの里やみのりの里などに囲まれ、各々のエリアには、楽しい遊びや体験ができる施設が沢山並んでいました。

花と遊びと光の空間へようこそ！

とPRされているように、バラやアジサイやササユリがきれいに咲いていました。

ササユリは、淡いピンクの花をつける日本特有のユリで葉が笹に似ていることから名前を付けられました。このユリは、繁殖力が弱く、群生しにくいことや種から開花まで七～八年かかること、近年の乱獲により自生種が減少していること、里山での下草刈り作業が高齢者により行えなくなっていること等から、自然の姿を見ることが少なくなっているそうです。

私たち寄島町のアッケシソウは、皆さんの協力により順調に保護活動が続き、さらに発展しており、大変うれしく思いました。

次の三次ワイナリーでは。試飲をしっかり楽しみ、お土産も買って快適な気分で帰路につきました。

お世話をしてくださった方々や運転手さん、大変ありがとうございました。



アッケシソウについて学ぶ
浅口市文化財講座に参加して

事務局長　三宅哲一

浅口市中央公民館で第三回浅口市文化財講座が開かれ、市内外から約三十人が参加しました。講義は岡山理科大学の星野卓二名誉教授がアッケシソウの保護保全をテーマに、寄島干拓地に自生するアッケシソウの保護活動と分布起源について次の説明がありました。

アッケシソウは、一八九一年に北海道の厚岸湖で採取されたことで命名され、瀬戸内海沿岸では日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎博士が一九一三年に愛媛県新居浜で発見しています。

アッケシソウのルーツについては、北海道の北前船により種子が運ばれたと考えられていましたが、葉緑体の遺伝子を分析の結果、韓国と瀬戸内の遺伝子が一致したため、韓国との交易の際に人為的に運ばれた可能性が高くなったと紹介しました。また二〇一三年に寄島町のアッケシソウが枯死した際には、アッケシソウのみを食べる虫「アッケシソウキガバ」が国内で初めて発見されたことや定期的な薬剤散布により、害虫の発生を抑制できた事を紹介しました。

星野先生は、アッケシソウは①適度な草刈り②海水の供給③害虫に対する薬剤散布④種子の流出を防ぎ種子を毎年収穫する等が必要と保護について話しをされました。この講座は文化財を通じて、地域の歴史や文化に関する知識と理解を深めてもらうため岡山理科大学と浅口市の包括連携協定事業の一環として開催されたものです。

編集後記

「アッケシソウ通信」第十六号を発刊しました。

今回、新たな自生地（F・G地区）が発見されました。これもひとえに岡山理科大学の星野卓二名誉教授、浅口市職員のご尽力のお陰と感謝しています。

また、九月十九日にC地区で「緑のアッケシソウを楽しむ会」が開かれました。見学は三時間と僅かでしたが、約四十人の方が緑のアッケシソウの茎に咲く小さな白い花を拡大鏡で観察して楽しんで頂きました。

今年もアッケシソウ祭り（期間・十月十七日～二十六日を予定）を開催します。ぜひ、見学に来て下さい。紅葉したアッケシソウも多くの皆様に見て頂けることを心待ちにしています。

